

共 同 研 究

(平成15年度敬愛大学経済文化研究所助成金による共同研究)

総合テーマ —「医療の進歩と個人の尊厳」— (Medical Advance and Personal Dignity)

- 共同研究者：松本博志 (Hiroshi Matumoto) : 敬愛大学客員研究員
元東京大学大学院工学系研究科教授
- 大森武子 (Takeko Oomori) : 敬愛大学客員研究員
東京女子医科大学短期大学名誉教授
- 石川牧子 (Makiko Isikawa) : 日本テレビ学院長
敬愛大学客員研究員
- 小澤直子 (Naoko Ozawa) : 敬愛大学客員研究員
- 山内義廣 (Yoshihiro Yamauchi) : 平成国際大学教授
敬愛大学客員研究員

内 容

前 言

(コーディネーター：山内義廣)

本共同研究は医療界において個人の尊厳がどのように取り扱われるべきかについて医学、看護、福祉、医療社会学、刑事法の視点から問題点を指摘し、その解決の方法を模索しようとするものである。総合テーマとして「医療の進歩と個人の尊厳」をかかげ、それぞれ5人の研究者がこの総合テーマと直接あるいは間接的に関係する各分野の問題点を指摘・検討し、望ましい医療と個人の関係はどうあるべきかを模索する。

松本研究員は医学の視点からインホームド・コンセントを中心に個人の尊厳について考察し、大森研究員は看護の視点から患者の生活の質について考察する。石川研究員は自身の介護体験を通じて患者との会話が患者の生活の質や病状の向上にどのように貢献してい

るかを考察する。小澤研究員は社会学の視点からアメリカ医療界において個人の尊厳がどのように保障されているかについて考察し、拙者は刑事法の視点から安楽死と患者の人権について考察する。以下、各研究員の研究論文である。

I. 「医療における個人の尊厳と自己意思決定権」(担当者: 松本博志)

Personal Dignity and Self-decision making point in Practices of Medical and Health care

II. 「QOLを目指した医療・看護」(担当者: 大森武子)

Medical Treatment and Nursing Toward Quality of Life (QOL)

III. 「介護における会話の効用」(担当者: 石川牧子)

Effect of Conversation at During Nursing Care

IV. 「アメリカの医療倫理政策」(担当者: 小澤直子)

Ethics in U.S. Health Care Policy

V. 「安楽死と患者の人権」(担当者: 山内義廣)

Euthanasia and Patientshumanrights